

Title	牧会サマーセミナー「傷ついた魂の癒しを求めて」報告(総合研究所News)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.3 : 35-37
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3531
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

総合研究所 News

牧会サマーセミナー 「傷ついた魂の癒やしを求めて」報告

2011年度の牧会サマーセミナーが聖学院大学を会場に9月2日（金）の9時から16時30分まで開催された。さまざまな教派の牧師8名が参加した。

今回で3回目となる牧会サマーセミナーは、カウンセリング研究センターが2008年度に実施したアンケート調査に基づいて、多くの課題に直面している牧師のリトリートと研修の機会として開催されている。毎回、講義と小グループの話し合いによって構成されている。

講義

講義Ⅰは、聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター講師の堀肇先生による「傷ついた隣人への癒し」という主題の講演であった。ルカ福音書10章30-37節の「よきサマリア人の物語」をテキストに、希薄な人間関係の中で傷つけ傷つく現代人の人間関係の病理を分析し、「良きサマリア人」に傷ついた現代人を癒すメッセージがあると語られた。とくに「憐れに思う」という言葉の原語には、内臓が揺さぶられるほどに他者の痛みに共感するという意味があり、復活のイエス・キリストに傷か残っていたように、イエス・



堀 肇 鶴瀬恵みキリスト教会牧師、臨床パストラルスーパーバイザー



藤掛明 聖学院大学大学院准教授

キリストご自身が傷ついた癒し人であることを強調された。

講義Ⅱは、聖学院大学大学院准教授の藤掛明先生による「平時のメンタルヘルス、非常時のメンタルヘルス」であった。ストレスを取り上げ、ストレスをいかに知り、対応するかが重要であることを語られた。ストレスを受け止めつつ、ストレスをためない方法のひとつひとつに参加者はうなづくことしきりであった。

午後は、2つのグループに分かれ、上記の講師のほか、平山正実、窪寺俊之教授、今回とくに参加いただいた大学チャプレン、菊地順教授、またカウンセリング研究センターカウンセラーの村上純子先生がグループに入って、それぞれの参加者の言葉に耳を傾け、アドバイスをされた。

分団と全体協議

各分団の報告は概略次のおりであった。

1) 疲労を感じている牧師が多くいる。牧師がひとりで問題を抱えて、孤立している。それで牧師が牧会から離れてしまったり、自死の問題が発生している。教団などが組織として牧師の問題を取り組むことがほとんどない。大学と教会が交流する中で、牧師をケアするシステムを構築できないか。牧師が継続して使命を果たせる環境を整えることが課題である。

2) 精神的に病んでいる方が教会にこられたと

きどのように対処したらよいか分からない。病気についての知識が必要である。また牧師が一人で関わるのではなく、教会でチームを作り全体で関わる必要がある。

3) 「がんばる」ことでうつ病になることがある。一方でからだを打ちたたくことによって前進することがある。この二つをどのようにバランスをとったらよいか。

4) ストレスに対する細かい配慮が必要であることがわかった。

また全体協議の場での講師からのアドバイスは下記のとおりであった。

1) 悩みを語ることが大切である超教派のグループなので、自由に語り、自分を見つめなおす機会となる。

2) 教団、教派で研修があるが、牧師のスーパービジョン、あるいはスピリチュアルディレクションのシステムを持っているところがない。またひとつの教団の中だけでは、利害関係があつてうまく機能しないということがある。北欧では牧師のリトリートの制度がある。企業、看護などの世界では「研修センター」をもっている。カトリックでは、スピリチュアルディレクションをする司祭がいる。プロテスタントの教会にはほとんどない。大学などの第三者機関が必要となっている。

参加者へのアンケートから

1. 講演Ⅰ（堀 肇先生）についてご感想をお聞かせください。

- ・現実の生活に則した内容でとても参考になった。今からすぐにも実践したい。心のあり方について確認できた。
- ・造詣の深い話に感銘した。とりわけ、キリストご自身の傷が満たされなかったように私たちの傷を傷付き苦しんでいた人たちのために用いてくださった。
- ・説教形式での講演はとても良かったです。強盗＝力の説明にはいろいろなことを気づかされました。
- ・「強盗的な力」によって傷ついているという視点は発見でした。「人格の基底」が失われてい

る人に自分も該当している感じがします。

- ・牧師の傷が「包帯」となっていくという言葉に癒やされました。傷があってもいいのだ、あった方がよいのだと安心した。
- ・教えられたことが多くて本当に感謝でした。何を心がけてどこを目指していったらいいのか教えられました。自分自身の傷を用いられるということに励まされました。本もご紹介いただいたので読んでみたいと思います。もっとこういう学びを深めたい。
- ・「中断」について考えさせられました。仕事優先的な生き方にならないようにと思います。

2. 講演Ⅱ（藤掛 明先生）についてご感想をお聞かせください。

- ・今、問題を抱えている教会の方々に実践してみようと思った。とても具体的でストレスに対し自分からも自分を見直したい。
- ・ストレスについて深く考えさせられ、平素と非常時の相違についていろいろと考えさせられた。
- ・気づかなければならないことを整理して下さって良かったです。
- ・ストレスへの対応が「数で勝負」とか「仕様もない気晴らし」など、ヒントをいただきました。
- ・非日常の中に自分の日常を作り出していくことが自分を支えてくれることに気づいた。
- ・相談を受けることが時々ありますが、先生のおっしゃるように答えを求めなくて聞いてほしいということ、その通りだと思った。「語って



教派を超えて8名の牧師が集まった

もらうことに意味がある」ということを大事に思いながらいきたい。

- ・抱えているストレスを意識することが大切だなと思った。

3. 分団会についてご感想をお聞かせください。

- ・いろいろと率直に分かち合えた。また、尋ねたいことも尋ねられてよかった。
- ・全く違う教団、教派の方々とお話しできてとても勉強になった。自由を失う信仰ではなく、お互いを認め合う自由ということを学んで視野を広げてもらったと思う。
- ・3名のスタッフの方が列席され適切なアドバイスをいただきました。
- ・個々の人の話を良く効いてくださり、意見も出してくださって良かったです。
- ・具体的な教会の場での取り組みを聞いて励まされました。
- ・他教団の方々のお話には興味が湧いた。いろいろな制限の中でお仕事をされているのがわかった。だからこそ、福音を語ることが重要なのでしょう。
- ・キリストにある自由を生きるということを考えさせられました。

4. 講演者のご希望がございましたらお答えください。

- ・聖学院の選択に期待しています。
- ・死に臨んでいる方が、自分の死について話していただけたら。(難しいでしょうが)
- ・平山正実先生。
- ・太田和功一先生「霊的形成について」。

5. 牧会サマーセミナー開催時期につきまして、ご希望がございましたらお答えください。

- ・今年は例外ということでしたが、レポート・参加費の支払期日がもう少しあったらと思う。参加理由レポートの使い道がわかると書きやすかった。
- ・この時期が良かったです。
- ・8月～9月。
- ・私にとっては良い時期でした。

- ・9月10月。
- ・夏休み、冬休み、春休みの時期。

6. その他、お気づきの点がございましたらお答えください。

- ・日本の教会のあり方や日本の宣教について、新たな視点を知ったように思いました。自分で考え付かなかったことなので感謝しています。
- ・私自身はこの集まりがグリーンカウンセリングの場と思い出席しました。年配になり、思い違いや勘違いが多くありますが、励まされたことに感謝します。
- ・セミナーのPRをもっと広げてください。